

口頭試問を受ける方への注意事項及びチェックシート

発表症例の選択

書類審査で提出した 1 症例を発表症例とする。歯科医師が多くかかわった治療症例ではなく、歯科衛生士としての関わりを面接官に伝えることのできるメンテナンス・SPT に移行して 1 年以上経過した中等度以上の歯周炎症例を選択する。

発表ソフトウェア

パワーポイントを使用して作成する。パーソナルコンピュータ（PC）は持参し、発表者ツールを含めた PC のすべての操作は発表者個人で設定できること。

発表時間	15 分	口頭試問	5 分
------	------	------	-----

チェックリスト

【選択症例】

- 書類審査で提出した 5 症例のうちの 1 症例である。
- 中等度以上の歯周炎症例である。
- メンテナンス・SPT に移行して 1 年以上経過している。
- 初診時、メンテナンス・SPT 移行時、メンテナンス・SPT 時の各時期において、口腔内写真（正面観、左右側方面観、上下咬合面観の最低 5 枚）、デンタル X 線（10 もしくは 14 枚法）プロービング値（6 点法）、BOP、PCR、動揺度のすべての検査結果が揃っている。

【プレゼンテーションの内容】

- 患者イニシャル
- 性別
- 主訴
- 現病歴（全身的、歯科的）
- 既往歴（全身的、歯科的）
- 現症
- 検査結果
- 歯周病学的診断
- その他、発表を行う上で報告すべき事項
- 初診時の検査結果（日時、口腔内写真、デンタル X 線、プロービング値、BOP、PCR、動揺度）
- 治療経過（口腔内写真、レントゲン等を用いて歯科衛生士として苦慮した点、工夫した点について面接官にアピールできる内容をクローズアップして作成する。）
- メンテナンス・SPT 移行時の検査結果（日時、口腔内写真、デンタル X 線、プロービング値、BOP、PCR、動揺度）
- メンテナンス・SPT 時（日時、口腔内写真、デンタル X 線、プロービング値、BOP、PCR、動揺度）

合格を勝ち取るためのポイント

- ・歯科衛生士としての基本スキルや知識を兼ね備えているかを判断するため、それをアピールできる症例を選択すること。
- ・発表は、申請者が面接官に訴えたい内容が明確に示され、起承転結がしっかりしていること。スライドのレイアウトは自由であるが、面接官が見えにくい写真やフォントサイズ、派手なスライドショーは避けるようにする。
- ・検査結果や日時の不備は絶対にならないようにすること。面接官に症例の概要を伝えることが重要である。
- ・口頭試問では選択した症例に関する質問と関連する基本事項の確認を行うため、初診時からメンテナンス・SPT に至るまでの過程をしっかりと把握し、発表の練習を行っておくこと。
- ・当日、PC の不具合に関して可能な限りのお手伝いはするが、設定はすべて申請者個人の責任とする。
- ・PC は個人で持参し、不具合の可能性も含め USB メモリなどにコピーを行い持参しておくこと。
- ・口頭試問当日は、試験時間の 30 分前には来場し、控室で試写を済ませておくこと。
- ・不明な点は学会事務局へ問い合わせること。